[illegible]射を傳授するに心より切なる志あるを
度申又吉田西へ行る性授一人を授とて
松下傳奥伝書曰吉田重賢始て月亜弾正を
師とし性授一人を授吉田家射道の祖也六角
両經分弓矢の道ハ窮へ[illegible]と慶義わり道[illegible]を
名付ものなり
庁景家説曰吉田上野ハ生江孝藏生郷の家里
至母愛ふ三日月入猪と云て懐妊し上野
を生り七歳の春慈母児を携下小松して
曰汝天性絶倫の器なり成生の後邪路に[illegible]

かゝるとなり天道乃助る所なり文禄月
八弓ハ[illegible]ハ御[illegible]ハ弓道の名誉と[illegible]祥
瑞なり必射を学ふへしと云て小弓を与へて且
夕是を習ハしむ志学ハ頃ひよりなりてよ
く此道に精力を尽し一通射芸の達人を
望ハ別遼遠をいとハ[illegible]て陋ひ学ぶ如
新なる事多わり秘とをいまゝ不測の妙
処を究めハ数ふ四意八章の秋吉田八幡宮
に一七日参籠し精誠を抽て霊神のか護を
祈り奇瑞を蒙る曉乃夢に白髪の翁一乃

矢を拾忽地と喜りて是を上て是を上と云て
云と見てさあれば上野介威張をもよめい
則路より矢文を射出して石ト書む時
士曰矢と上る所の二字と示す也是の字は
日一ト人を食する字也然は射術よりおもてハ此日
な一人の上をもとめへき場を現しの人なる
と云上野教者のおりひとをもて放つ切
場の切源史也むは対なし聖庚申年正月十
九日を数又十有餘の人暮りて上野より渡
て曰汝射を学ぶのんさ切也我此道の其

術を伝授ち恵伝受ちむへしと云り上野
喜悦甚しく受性名をとゝ人は貝亜弾正と言
曾て生涯を不云永容稽古為として
郡書を巧ちと孫天授と伝受をなりひ教授
最厳なり嫡子出家ちる須十六歳父子共
是和歌矣して當道の妙処を伝ふ新絶
教の術不ち揚ず習学をする事院より七年永
正四年正月中旬悪く射の秘術を授ける
可授与とく年回年九月中旬月亜いかくを
ちうとり云ぬ上野父子怪ずして感歎し

嬰兒の父母代暴うこと能はず終れ
ども生死を与ともに云ふ惟仏菩薩の
妙言況と以来とを乞うて仏を入るくこと
かくの如人生如もなく終を尽し是偏に八幡
大神の人界に現し後世菩提のたすけ給ふ
無量の恩徳なし孫弟伝ひ心附なく行年八
十歳にして瞑目す正保元年正月吉田家へ来る事慶川
の仏書に八幡慶九年正月十九日と深正
吉田家へ来る事慶三年三月十九日と
吉田家へ来る事慶川仏書に八幡慶九年正月十九日しかり又重て深正
年正月中旬とあり
是ども又あ況也

針野加賀守

大塚安藝守

針野加賀守大塚安藝守共に與吉田上野介従日置
弾正得射妙一貫針野者居江州伊吹山麓也矣
吉田家へ来る仏書に吉田道賢中こ妙と計
野加賀守と仏と記せり

淵上河内守

淵上河内守者學射於日置右馬丞得妙右馬丞者
習於日置留利光坊有井關喜西定吉者繼淵上之
傳
井関喜西仏書曰日置右馬丞と永生坊と習

以永正坊八月正為判者坊也日正の名字を
皆る正へ改りくとまく

吉田出雲守重政

吉田出雲守源重政者上野介重賢嫡子也始號助左衛門繼箕裘之藝射聲之妙華夷稱之佐々木左京大夫義賢請相續其射傳重政不許可故與義賢有隙遂捨普代采地到越前一條谷居六年後亦歸江州義賢加倍采邑七箇所遂授射道一貫於義賢改號一鷗弟吉田和泉守吉田若狹守共得射妙不墜家聲

家門書心傳書曰依之來於京義賢へ一鷗
の唯授一人を受あるへき事を悉く普代の地を
捨て越前の一條谷へ引籠り六年居住之上
猶都へ來り義賢へ此所ヲ仕割加増
七ヶ所相分け義賢一鷗の子として
唯授一人を傳受すと云々一鷗ハ子露滴へ義賢
唯授一人を授けてあり

按曰吉田一鷗於越前一條谷坂上一乘
寺藏する書於傳の方書あり又書
奥書曰吉田一鷗入道於越前一條谷上乘寺書於今於傳永正十三年
八月云々又一書の奥書曰吉田一鷗於越前一條谷上乘寺書於江
州後土ニ移りて永正十七年二月二日云々又條
を以て考之ハ一鷗一條谷へ移る事永正十二三年の頃なりて江
州に移る八永正十七年ころなるべし然とも仮にまた義
賢の年數を以て考えれハ能くしくうきかり

佐々木左京大夫義賢

佐々木左京大夫源義賢者弾正少弼定頼男也好射術爲精妙就於吉田重政請相續其傳脉重政不許然義賢乞之不止重政感其厚志遂以傳射道奥秘義賢後號拔關齋承禎得父祖之禪居觀音寺城亦善馭慶長三戊戌年三月十四日卒

或書曰六角義賢八其頃天下無雙ノ射手吉田一鵰入道力唯授一人ノ門弟ニテ常ニ射藝ヲ好ミシケル

松本民部少輔

松本民部少輔者吉田道寶季子也居大津松本精射也後於越前戰死家人松本吹尤衛門和田甚左衛門同猶死也

吉田出雲守重高

吉田出雲守源重高者一鵰入道嫡子也始號助尤衛門繼父祖之藝得妙佐々木義禎入道以奥秘授之後號露滴

吉田六尤衛門重勝

吉田六尤衛門源重勝者重高弟也達射術善村至今稱傑作後號雪荷始居丹後田邊也子孫在藤堂

家傳射術不墜家聲其名偏日域

吉田出雲守重綱

吉田出雲守源重綱者始號助左衛門出雲守重高嫡子也繼父祖之藝無雙勁弓也後號花翁或曰道春有四男一女嫡子助右衛門豐隆二男與右衛門三男五兵衛四男五左衛門此人者赴備前仕池田家二女嫁葛巻源八郎源八郎後號吉田一水軒卯西其名高矣

或書曰吉田出雲守重綱八近代ナラヒナキ強弓也遠矢和田山ヨリ其作城ニイタル和田山箕作共江州

地名

吉田助右衛門豐隆

吉田助右衛門源豐隆者重綱嫡子而傳箕裘之藝不墜家聲寛永年中住攝州大坂後改同哉軒嫡子助左衛門豐綱二男助右衛門三男三左衛門豐方共達射術嗚呼吉田家數代傳弓術揚家聲誠奇哉

吉田左近右衛門業茂

吉田左近右衛門源業茂者出雲守重高三男而得射術之神妙又善村後仕中納言菅原利家卿剃髪號木反世所謂左近右衛門孤者業茂之工夫也或

曰關白秀次公甚好弓術被召業茂業茂乃奉教授其術秀次公甚有感賞嫡子左近右衛門茂武繼其藝而不恥父祖能辨弓道之善惡其子小左近茂成繼父祖之志為精妙

大藤家重傳書曰實白秀次公活弓之紀ハ三十三ヵ雲殿ゝ於稚ノ人を遂矢を筋とし御家乃人ゝい兵ゝ之ヵ而ハ城久左衛殿雲見三河と云て弓仰出ハ　上様の御矢を筋遂矢仕ふへ申ハ源て金紙可ゝ下由ゝ於仰出ハ紙三河ヶ上ハ我ハ一代若の事上様乃御矢見源ゝ

ヶ年世ゝ源ゝ通ゝ弓紙ハ乃金紙何程ゝ下ハ
ゝ見源ゝヶ乃ヶ故ヶ上ハ御ハ　上様の
御矢を筋遂ゝ雲縁と三すゝけゝ乃事ゝ色
色ゝ光仕ふへゝ出矢を筋を遂不ヶハ須い天
ハ乃事也又弓ハ代ゆゝたゝ小ゝ紙乃を遂ゝ
秀次公の乃如ゝ乃事也

吉田平兵衛方本

吉田平兵衛源方本者業茂二男也與小左近茂成大藏茂氏共盡心於射術其子平助雅樂助亦達其藝之藝

吉田大藏茂氏

吉田大藏源茂氏者業茂三男也始仕富田信濃守信高後仕中納言前田利家卿領采邑千石茂氏日夜盡志於射術故得其精妙射於蓮華王院七度而六度爲京一其術神而妙也故佳名傳千載好射術之鳳乎至今學其工夫者多世稱之大藏流

大庭家重傳書曰吉田大藏と申仁大名よりて手ぶしをもつて弓射手ゑんを上手ゆゑ須の弓射上手中沢丹波ゑ迄ハ射ゑゑ申ゑ紀の上手系大仏ゑ内匠波ゑ安人と大藏射ゑゑ射ゑ時弓ハ中沢丹波ゑ弓乃長六尺七分ゑ射出ゑゑみの事ハ六分七合ゑ七分を合弐合ゑ上ゑ射出矢のゑ内匠と申仁ゑ上手と仕ゑ為ゑ入ゑ事也御ゑ射ゑ時大藏ゑ三百三拾五間迄矢の内七百五拾三本丹波ゑ射ゑゑ弓一張ゆゑ射迄ゑ事也法圓の射手ゑ為ゑ学ひ大矢数射ゑゑ事ゑ為ゑ大藏を矢数乃神と人皆申仕ゑり

又曰寛永六年吉田大藏子吉田左馬助生年十四ゆゑ初矢数遊矢ゑ百ゑ内迄矢二百ゑ

射道をとゝ

吉田源八郎重氏

吉田源八郎源重氏者江州人始號葛卷源八郎吉田出雲守重綱以嫡女嫁源八郎後有故與重綱有隙於此學射於吉田右近右衛門業茂継婦家姓氏改號吉田一水軒印西其術至精妙始仕關白秀次公後仕結城中納言秀康卿及宰相忠昌卿遂以其術奉拜

東照宮

台德大君

大猷大君寛永十五戊寅年三月四日死七十七歳諸州其門人甚多世稱之印西流其子久馬助重信寛永四丁卯年始奉拜

台德大君

大猷大君又精其術重信之弟三右衛門平内重好

此亦繼其業藝發令名重信子孫相續而在幕下

大庭家重傳書曰三十三間堂ハ弓ヲ射ル道初ル吉田ヲ為ト云ヘシ

石堂竹林如成

石堂竹林如成者始爲浮屠居江州號竹林坊嘗聞吉田一鵬入道之射傳而甚逼眞後居紀州高野山又移芳野後又因中將忠吉卿之命來於尾州清須城下忠吉卿家臣等多以竹林師之後於尾州死在二子兄曰石堂新三郎弟曰石堂弥藏貞次雖爲二男繼其業藝竹林如成死後新三郎習射於野村作左衛門而自號石堂竹林元和年中於越前高野渡口船覆而死從貞次習弓術者多至今未流在諸州稱之竹林流

吉田家傳曰竹林如成入吉傳して江州に居る

吉田家傳曰竹林流也射術と一路入道に習ふて竹林流と号せり

細川記曰永禄元年六月九日松永彈正久秀又子人の勢ひを以て傍軍地蔵山に陣を張り近江の亡角義賢の勢に向て合戦を始む互に新手を入替る時日戦ふ事ひさしく近江勢討負て十三人討死す松永傷を蒙て退き松永彈正久秀と名乗り一番に近江方に竹林坊と云名乗りと切て出る中に上手松永を狙ひ丁と射て久秀運や強く竹林胸板に強を切れ